

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	良く なっている	乗用車販売店 (経理担当)	販売量の動き	・8月の販売量は前年同月比120%である。5月の販売量は前年同月比59%だったので、3か月前と比較してかなり改善している。
	やや良く なっている	一般小売店〔鮮魚〕(従業員)	販売量の動き	・例年だと我々の業界はいわゆる夏枯れの第2四半期となるが、今年はさすがに北陸新幹線効果が持続していて依然堅調に推移している。
		一般小売店〔書籍〕(従業員)	来客数の動き	・7～8月は年間でも売上の悪い期間だが、来客数は若干であるが伸び、買上点数も増えている。
		スーパー(店長)	単価の動き	・今年の場合はお盆の期間が短かったが猛暑の影響もあり、夏物商材は前年と違って顕著に良く売れたと思う。
		コンビニ(店長)	お客様の様子	・夏場全体の売上もそうなのだが、最近は花火大会などイベントに合わせて敏感に売上が向上する。コンビニ業界全体では供給過多のため全体的にそれほど好景気でないが、当店ではイベント時や好天時の売上が3か月程度前に比べて良くなっている。また、仕事以外でも最近は遊戯施設に行った際など去年よりもたくさんの人でにぎわっており、予約が埋まっていて取りにくいなど、私の身の回りの景気は上向きになってきていると感じている。
		コンビニ(店舗管理)	単価の動き	・ショッピングセンター内の店舗を中心に、多額のプレミアム付商品券が集まっている。その影響か、客単価が大幅に伸びた。猛暑も良い追い風になったであろう。
		衣料品専門店(経営者)	単価の動き	・ある銀行の店長の話ではとても景気が良いとは思えない。しかし、私の感じでは2～3歩前の感じだが、少し景気は良くなっているのかなと思う。当店の客単価が少し上向いている。
		住関連専門店(店員)	販売量の動き	・落ち込みが顕著に現れていた耐久消費財の販売が、単価、買上点数共に増加傾向にある。
		スナック(経営者)	来客数の動き	・月末に貸切が入ったりして、悪かった前年同月よりも3割増しであったが、世界同時株安の時は来客数ゼロといった状態で、やはりそういうことに左右されるのかなと思う。
		都市型ホテル(スタッフ)	販売量の動き	・宿泊売上は好調だが、レストラン売上は微増である。観光客は伸びている反面、平日のランチ客や地元客が減少しているのを感じる。
		都市型ホテル(役員)	販売量の動き	・宿泊部門は北陸新幹線開業以降、インバウンドとビジネス客の増加により順調に推移している。今秋の大会やコンベンションの増加により、宿泊は更に増加が見込まれる。レストラン部門はプレミアム付商品券の特需を期待したが、わずかな利用にとどまる見込みである。個人消費の回復には至っていない。法人の宴会利用も足踏み状態にある。
		タクシー運転手	来客数の動き	・3月の北陸新幹線開業後から人出が多く売上が好調である。8月は夏休みに加え猛暑で暑い日が続き、お盆を中心に特に観光客が平年より何倍も多く、良かった。
		タクシー運転手	販売量の動き	・今年は例年より登山客が多く、登山基地までの輸送が多かった。現地では自家用車も例年以上に多かった。
		通信会社(店舗統括)	販売量の動き	・広告を見て来店したという客が多く、そのような客への販売量は増えてきている。
		住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・展示場来場者は新築、リフォームを含め増加している。情報量も着実に増加し、見込先件数もアップしている。
住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・客1人当たりの金額が比較的大きくなってきている。また、核家族だけでなく二世帯同居の話が増えている。リフォームにおいても大規模なものが増えてきた。		
住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・客で省エネ住宅エコポイントに関心を持っている人が増え、展示会の来場者数も以前と比べ増えていると感じる。		
変わらない	商店街(代表者)	お客様の様子	・初秋物が例年通りの動きをしている。客も新しい傾向のものを探しているようだ。	
	一般小売店〔精肉〕(店長)	来客数の動き	・客数が特に減少した感じも増加した感じもない。いつも来る客の顔を見る。	

一般小売店〔事務用品〕(店員)	競争相手の様子	・どこも苦戦を強いられている様子がみられ、いい話を聞かない。
百貨店(売場主任)	来客数の動き	・16日までの8月前半は夏物のセール品や晩夏物の定価品が堅調に動き、前年および前々年実績超えて推移した。しかし中旬以降は大型ディスカウント店オープンによる影響もしくは月末のプレミアム付商品券発売に伴う買い控えにより来客数が減少し、売上が低迷している。
スーパー(総務担当)	販売量の動き	・8月は中旬ごろまで猛暑が続いたため、食品では飲料、アイス、麺類、焼魚などの動きが良かった。
スーパー(総務担当)	販売量の動き	・競合店の新築や食料品の値上げにより客の価格に対する意識が高まっている中、店舗の好不調の差が大きくなっている。ただし、全体としての購買量は昨年並みで推移しており、景気の状態は変わっていないと判断した。
コンビニ(経営者)	販売量の動き	・来客数は微増しているが、客単価の微減が続いている。
コンビニ(経営者)	販売量の動き	・夏休みであり当店周辺施設で全国の大学からの合宿があったり、土日のイベント日の天候も良かったことから若干数字はアップしているが、普段のウィークデーの売上などは、普段の季節以上のアップはみられない。
衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・当地での大型ショッピングセンターの開業で、既存店の集客が10%以上減少しているように思われる。売上のパイの取り合いで、消耗戦の体をなしている。
乗用車販売店(経営者)	販売量の動き	・中古車とサービスの売上は少し良いが、新車販売については低調が続いている。
乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・新型車の発売、展示会などで問い合わせは多くなっているが、なかなか販売に結びつかない状況が続いている。
乗用車販売店(役員)	販売量の動き	・北陸新幹線のおかげで地域としては景気の高揚感を感じるが、観光客に左右される業種ではないのでその恩恵はあまりない。新型車が1車種増えたので、消費税増税後の前年と比較すると好調かなと感じる。
自動車備品販売店(従業員)	お客様の様子	・今月に入り例年と比べると集客面が減少しており、来店購入率も低い状況である。依然として買物については慎重になってるよう感じられる。お盆期間も遠出を控え、近場で済ませたことでメンテナンス需要も下がっている。
その他専門店〔酒〕(経営者)	販売量の動き	・昔から2月と8月は暇だということになっているが、実際その通りである。お中元が過ぎお盆の時期になり、昔は帰省して家で飲んだり食べたりしたものが、今はそうした需要もなく静かなものである。
その他小売〔ショッピングセンター〕	お客様の様子	・連日の猛暑で盛夏衣料、寝具、プール用品、飲料、ノベルティアイスなどが一気に上がった。今年はお盆期間が短く、食料品が苦しんだ。プレミアム付商品券の使用数は落ち着いていたが、お盆期間に再び伸びた。プレミアム付商品券の使用はやはり食料品に集中していた。
その他小売〔ショッピングセンター〕(統括)	来客数の動き	・今夏、県内に相次いで大型商業施設が開業した。その影響があつてか、直近の夏季休暇期間の集客が減少し、売上も2年ぶりに昨年を下回った。ただし落ち込み幅は想定よりも小さく、今後の市場動向を注視していく。
高級レストラン(スタッフ)	販売量の動き	・今年3月に開業した北陸新幹線の影響により、関東方面からの個人旅行者、団体旅行者の集客増が継続している。
一般レストラン(店長)	来客数の動き	・天候のせい、平日の観光客は例年より少なく感じた。
一般レストラン(統括)	それ以外	・売上高、来客数は予定通りの実績を残しても、人件費アップや原材料価格の高騰により利益が予定通りにならない。特に人手不足解消のため、現場の労務環境改善、待遇改善が急務の課題である。営業できる体制づくりが一層困難な状況で、営業日数減少や営業時間短縮による対応しかない。
観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・夏休み期間は家族連れを中心に例年並みの入込人数と売上高だった。

	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比総売上140%、宿泊人数131%、宿泊単価113%と4月以降は前年を大きく上回っている。15名以上のグループは101%だが、14名以下の個人客が162%と大きな伸びとなっている。北陸新幹線開業効果が出ている結果である。	
	旅行代理店（所長）	販売量の動き	・北陸新幹線開業後は順調に売上が伸びていたが、前年と変わらなくなってきた。	
	通信会社（役員）	販売量の動き	・例年8月はお盆休暇を挟み契約獲得数が例月比大きく減少する傾向にあるが、今年は引き続き好調に推移している。通信サービスの多様化による高速ネット回線需要がおう盛である結果と見ている。	
	通信会社（営業担当）	来客数の動き	・家族で複数台購入を希望する客など、機種にこだわらず古いから買換えようという客が多いが、来客数は以前と変わらない。	
	通信会社（役員）	販売量の動き	・例年8月は比較的閑散期ではあるが、今年は変わらず契約数が好調に推移している。	
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・北陸新幹線の開業効果で首都圏からの客の伸びやインバウンド客の伸びはみられるものの、全体としての利用客数は前年同月比で横ばいで推移している。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・6～8月は3か月続けて来客数が前年割れをしている。少し心配である。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・北陸新幹線開業のおこぼれか、お盆はぼちぼちの入出で昨年よりは活気があった。しかし、お盆以外の入出は日によってばらつきがあり、8月の売上は全体的に落ち込んでいる。	
	商店街（代表者）	販売量の動き	・県内にオープンした大型ショッピングセンターや夏休みの休暇に対する出費準備などの影響と思われるが、当商店街の今月の売上状況は良くないように思う。大型ショッピングセンターやアウトレットモールが開店したところから、商店街の通りの通行量も減少したと思う。	
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・8月は大型ショッピングセンターやアウトレットモール、食の大型ショッピングセンターなどがオープンし、そうした店舗で扱っている商品群については客はまずは新しい店で買物をしている。したがって、当店では若い男性や女性のファッション、食品関係については前年をやや割り込んでいる現状である。	
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・8月に入りセールも一段落したせいか、平日、土日に関わらず売上は厳しい日が続いていた。お盆の時期に帰省客や観光客で入店客数は増加したが、売上にはなかなかつながらず、物よりも食品などにお金を使う人が多く目立ったように思う。	
	スーパー（統括）	来客数の動き	・競合店の出店の影響もあり、以前と比べて来客数が非常に下がっている状況である。会員制大型量販店や大型ショッピングセンターなどの出店が続いているので、その分どうしても来客数が減っている。	
	衣料品専門店（経営者）	それ以外	・中国をはじめとした株の暴落は社会不安を起こしている。	
	家電量販店（店長）	販売量の動き	・暑さも8月の前半のみにとどまり、エアコンなどの夏物商材の売行きが悪くなってきた。	
	競輪場（職員）	販売量の動き	・お盆に開催されたビッグレースの売上が予想以上に低迷した。	
		その他レジャー施設（職員）	来客数の動き	・夏の特別教室の集客が思うようにならず、春以来の会員減小をカバーすることができなかった。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・新築住宅及び分譲住宅の受注が安定しない。従来と比較して、爆発的に受注できる月がなくなり、低い水準でアップダウンを繰り返している。
悪くなっている	-	-	-	
企業動向関連	良く なっている	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・第2四半期に入り7月中旬から8月になってようやく市の物件が発注され始め、受注できるようになった。
	やや良くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・スポーツ分野については、欧州向けが相変わらず厳しいが米国向けの受注があり、前年を上回る数量となっている。国内向けについては婦人ファッション分野は厳しい状況が続いている。
化学工業（総務担当）		受注量や販売量の動き	・受注量が増加してきた。	
一般機械器具製造業（総務担当）		受注量や販売量の動き	・国内市場では省エネ補助金の効果があり、受注が伸びた。	

	司法書士	取引先の様子	・住宅用地が中心ではあるが、不動産取引が増加している。	
変わらない	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年同様で、どうにか低位安定という状況である。	
	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・北陸地区において、工事量の減少傾向から一部で低価格受注の業者がみられ、受注価格競争激化の兆候が出始めている。	
	輸送業（配車担当）	受注価格や販売価格の動き	・円安による原材料の値上げに伴う商品の価格アップの影響で、個人消費は良くなっていない。	
	金融業（融資担当）	受注量や販売量の動き	・工作機械メーカーなどの生産が高い水準にあるが、従来からも見られている動きである。また、百貨店の7月売上もまずまずと聞いているが、アウトレットモールの開業や大型量販店の開業の今後の影響が気になるところである。	
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者からの情報では動きは少しずつ出ており、それがしばらくの間持続するだろうという話であった。	
やや悪くなっている	食料品製造業（役員）	それ以外	・輸入原材料の高騰が収益性を悪化させている。販売量については104%前後で推移しているものの、収益性の問題から利益率は悪くなっている。	
	精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・国内小売大手数社の販売状況は引き続き厳しい状況が続いているようで、依然として仕入制限を行っている。当社商品については最近まではほとんどその対象外であったが、ここにきて一部対象にした店舗が出てきた。	
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・世界的な株価の下落から消費者心理が冷えてきた。プレミアム付商品券がなかったらもっと悪い。物価が落ち着いていることが唯一の好材料である。	
	税理士（所長）	取引先の様子	・中小零細企業では受注量があまり大きく伸びていない。いろいろな面で価格も厳しくなってきた。大企業と中小企業の二極化も進んでいるような感じもするが、全体的に気になるのは少しデフレの感じが出てきているのではないかと。とにかくな値引き、安くということを出ている。消費に関する意欲が小さくなってきているような感じがしており、全体として世の中のお金の回りが良くないような気がする。	
悪くなっている	-	-	-	
雇用関連	-	-	-	
(北陸)	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・今年に入ってからの傾向が続いており、求人広告数はそれほど変わらないものの、正社員の募集の数が増えている。金額の高い自由原稿枠の出稿が増えているのは、多少の出費増は覚悟の上で少しでも目立つ自由枠への出稿となっているからだと思われ、求人については予定数を確保しきれていない現状が背後にあると思われる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・全体的に求人数が前年同月と比較して増加傾向にある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が4000人を超え、依然好調な数字である。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	求職者数の動き	・派遣受注数は増加傾向にあるものの、登録者数が依然伸びず、マッチング率が悪い。企業側も優秀な人材は正社員化の方向で検討する傾向になりつつある。
		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・ここ最近、新規案件でサービス関連の求人が多くなっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月とほぼ同様の水準となっている。この状況は3か月前と同様である。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・一部大手はやや求人増加傾向がみられるが、総じて横ばいである。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・IT関連企業や製造業を中心に、大手だけでなく中小企業の求人採用活動も活発である。
	やや悪くなっている	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・1回平均50件ほど求人件数が減っている。
新聞社〔求人広告〕（役員）		求人数の動き	・8月の求人広告売上は、前年同月比で6割であった。	
悪くなっている	-	-	-	